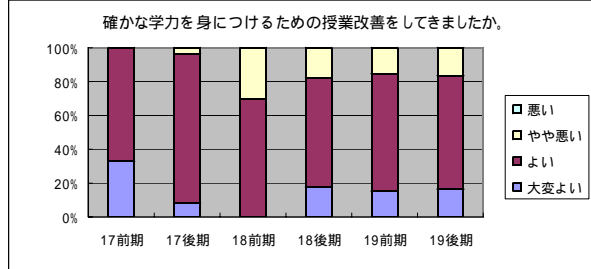
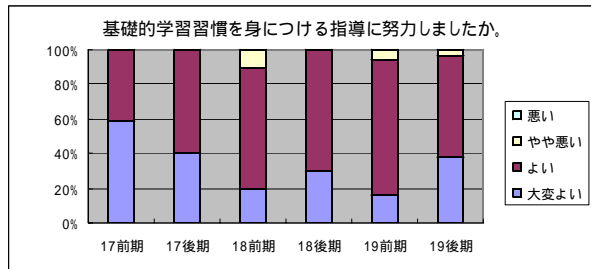
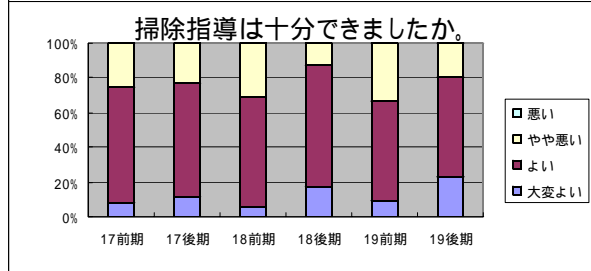
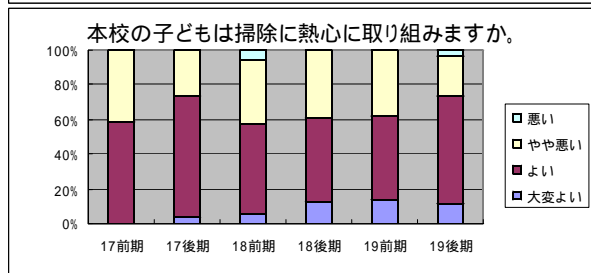
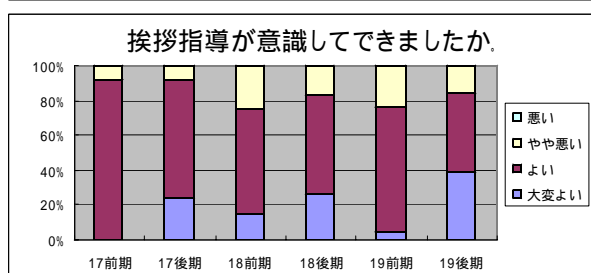
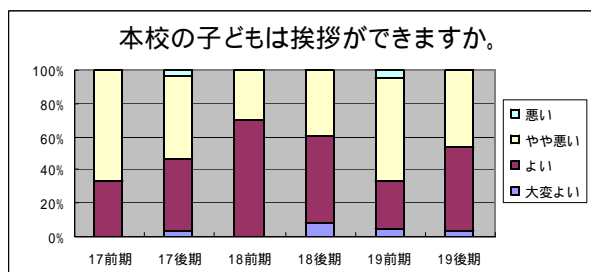


## 平成19年度後期学校評価アンケート集計結果と考察

平成17年度より同じ項目で調査してきた結果です。なお、自由記述欄のコメントについては、職員間で読ませていただき今後の指導の参考にさせていただきました。

## 【職員】



・「長島の子はあいさつができない。」と赴任されて見えた先生がよく言われます。平成17年度より「あいさつ指導」を大切にするようにしてきました。その結果児童は意識していても職員の評価はまだまだ低い状態です。

「あいさつができない」のではなく「初対面の人」が苦手」といった傾向があるというべきではありますが。

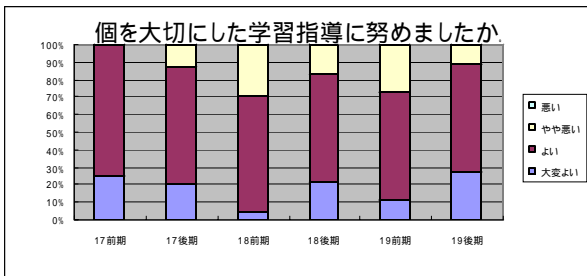
しかし、指導の成果が後期の数値にはよく出ています。児童会のあいさつ運動、分団登校でのあいさつチェックなど定期的な活動が今後も大切であると考えられます。

・学校長が集会で「お客様に褒められました」と語ってくださったのも大きな刺激になっています。

・掃除の取り組みについて全体的によくはなっています。3学期には、全校共通の掃除チェックを実施します。学校全体で掃除に取り組むことを通して一人一人の掃除への意欲を高めていきます。

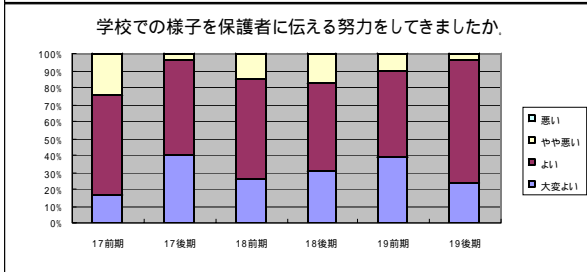
・学習習慣の定着は、先生方の担任時代1年間で完成するものではありません。全校的な基盤での習慣づけの指導が大切であると考えます。先生方の個性があるようにどこまでを許可し、どこからは許せないという線にも差がないように細かな共通理解をしていく努力をしていきます。

この指導の差こそ子どもたちを不安にさせ、先生の顔色を見て動く子どもを育ててしまうものになります。国語科の公開授業を通してそれぞれの先生方の差を指摘し合い、この差をうめる努力をしていきたいと考えています。



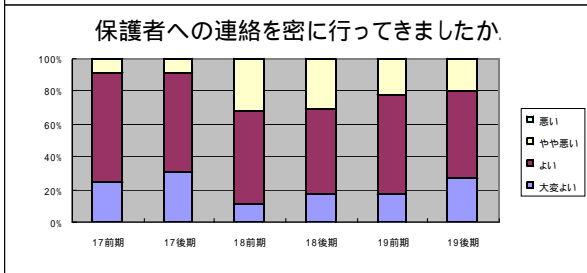
- ・ 個を大切に学習指導の数値が伸びてきています。今年度は、ひまわり学級が3クラスになり特別支援学級の児童数も増えました。「特別支援」の考え方は、学校全体に関わるものです。個を大切に学習指導のより具体的な姿だととらえています。

全体指導と平行した個への指導を大切にします。

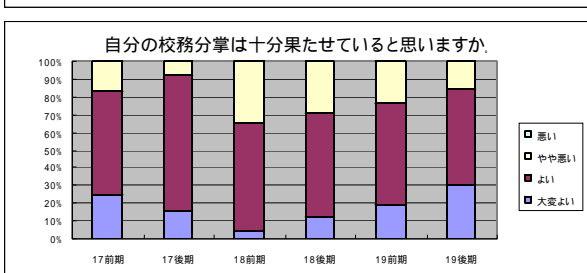
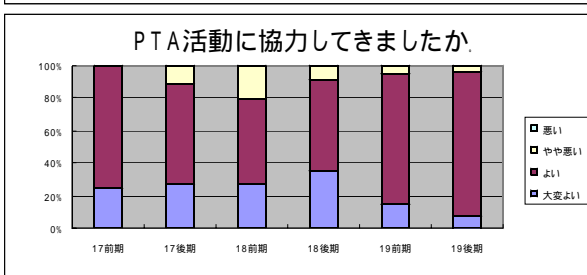


- ・ 保護者との関係は大変よくなってきています学校が十分対応することのできないことはまだまだあると思いますが、いわゆる「クレーム」にあたるようなものはありません。

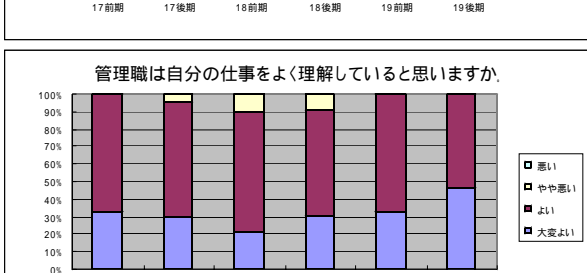
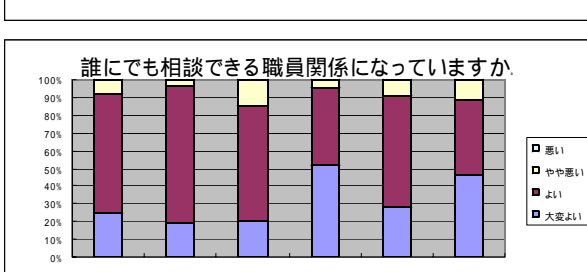
学校と保護者の親密な関係は、子どもの姿になって出てきます。これからも諸問題については、子どもを通してではなく直接検討し合える関係を維持したいものです。

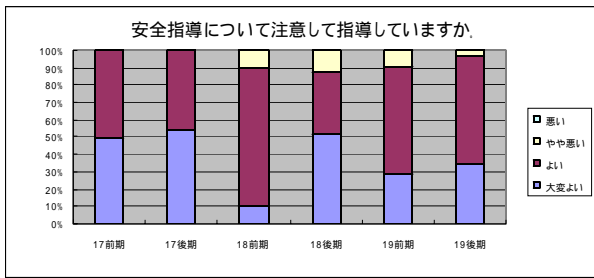


- ・ コメントの中に「担任の先生が授業以外の場面でよく協力してくださってありがたい」というのがありました。大切にしたい教師の姿勢です。



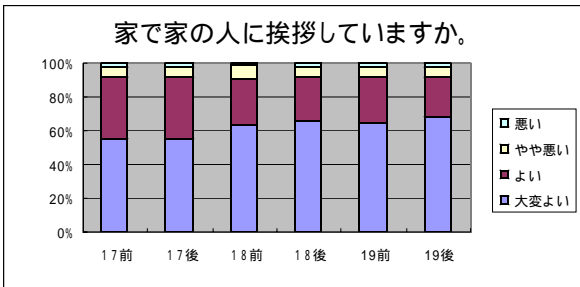
- ・ 本年度も笑いの絶えない明るい職員室になっています。



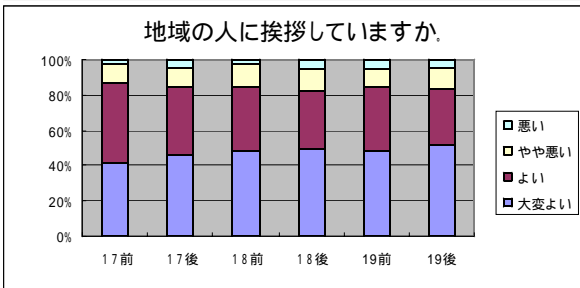


- 安全指導は毎日の積み重ねです。学校外の場所でのことですのでなかなか指導が行き渡りませんが、安全については、子どもたちに繰り返し指導していきます。

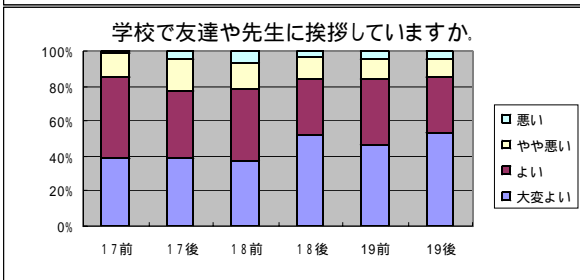
## 【児童】



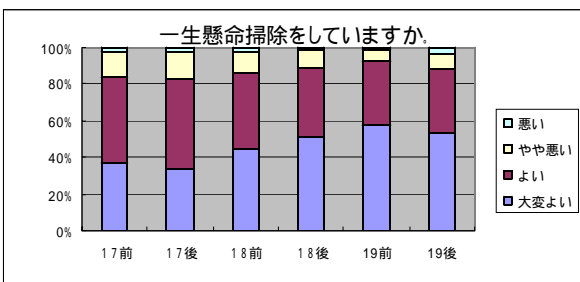
- 家庭での挨拶の数値が上がっています。「長島の子は挨拶ができる」を子どもたちに広げていきたいですね。



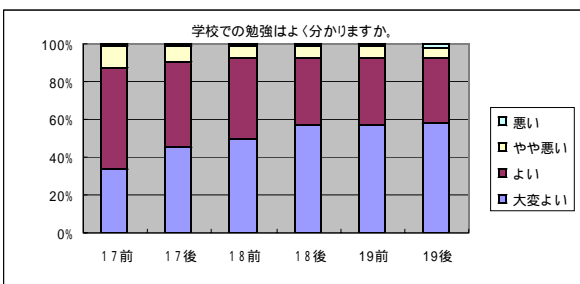
- これもまた年々伸びてきています。地域での挨拶は防犯の意味もあります。通学路でたくさんの知り合いをつくっておく力も大切です。また、「さんの子ども、孫」と呼ばれるような地域の人間関係もほしいですね。



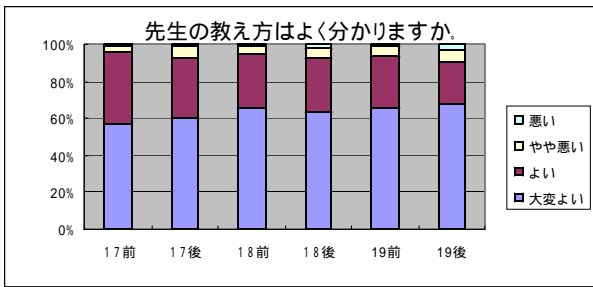
- 児童会の取り組み、分団登校のチェックが効果的でした。定期的に続けていきます。



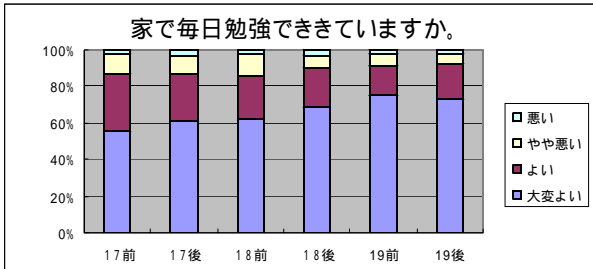
- 掃除への意識がやや低下しつつあります。特に「悪い」と答えた児童が増えているのが気になります。3学期に行われる「掃除チェック」は有効であると考えています。



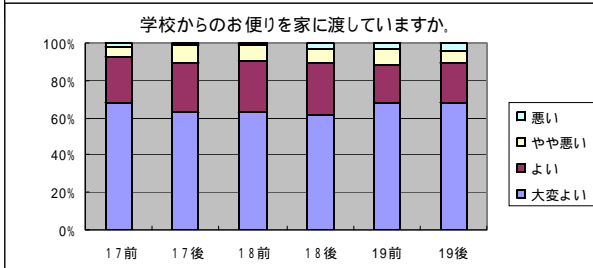
- 全体的な伸びはあるのですが、「悪い」が増えているのが気になります。但し、90%近くが「よく分かる」と答えているのは、正常な姿です。「分からない」と答える児童のフォローをしていきます。



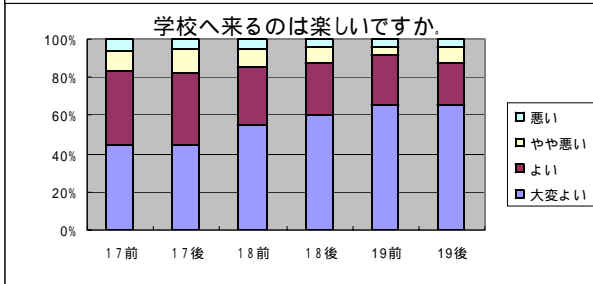
- 「大変よい」が上がってきています。分かる授業、楽しい授業が学校に子どもを引きつけます。不登校を出さない大きな要因であるととらえます。



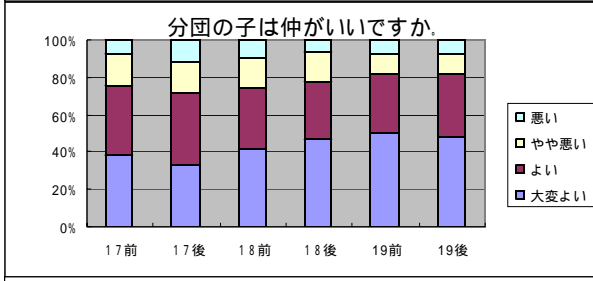
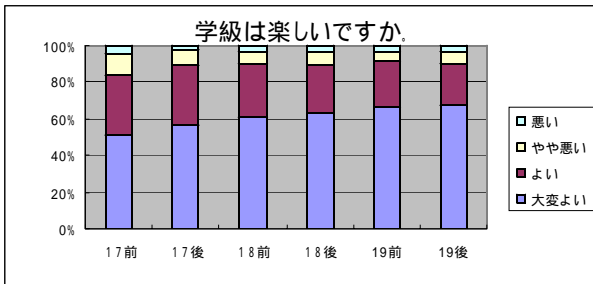
- 全体はよく伸びてきています。しかし、相変わらず数名のお子さんが家庭学習に取り組めていません。家庭での学習環境作りをお願いします。



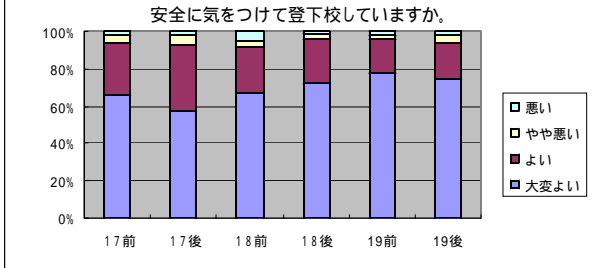
- 学級や学校の便りをまったく渡していないお子さんが増えてきています。「渡さない」ではなく確認する時期をきちんと持つことで習慣化させたいものです。また、緊急時の連絡がとれないなどの家庭も出てきています。ご配慮願います。



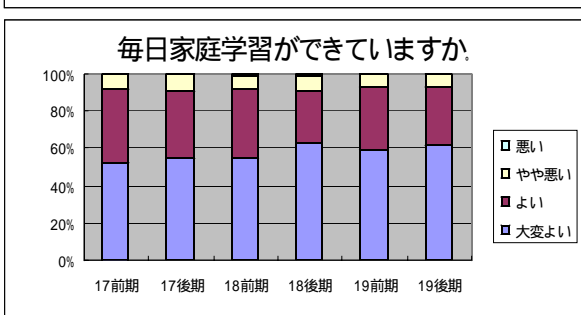
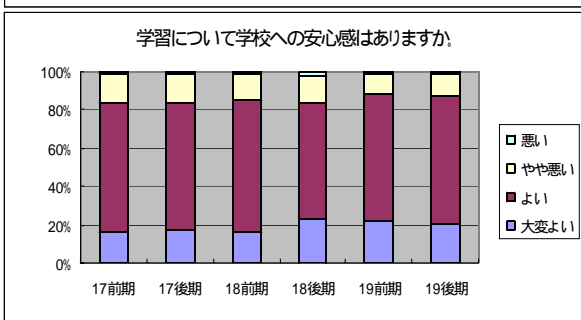
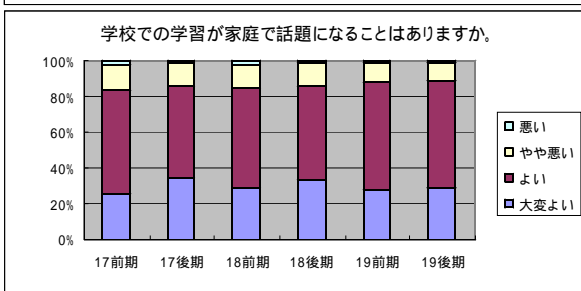
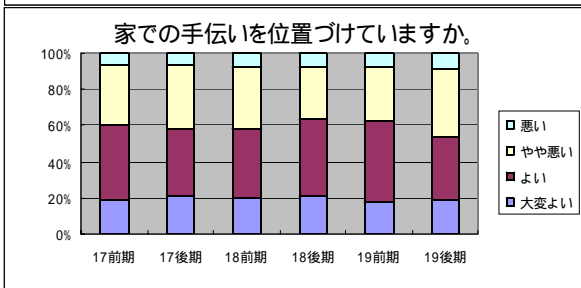
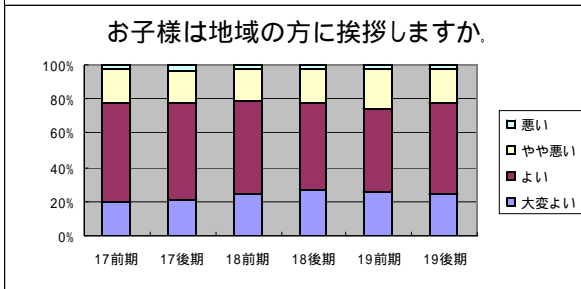
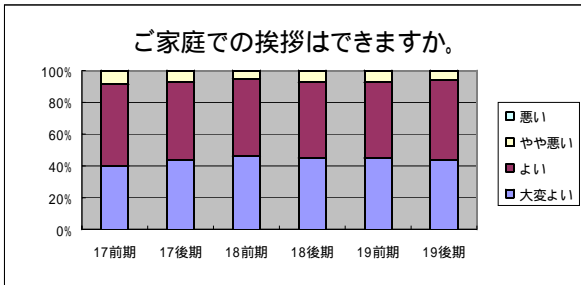
- 子どもたちはその日の出来事で気分が左右されます。その結果が数値に出てしまいましたが、現在のところ「不登校傾向」で長期欠席しているお子さんはいません。この規模の学校としては大変ありがたいことです。もちろん、「楽しくない」理由について個別相談をしていきます。



- またま問題を残しながらも、少しずつよくなっているのではないかと考えています。皆無にすることは、難しいのが現状です。しかし、低学年が高学年の言うことを聞けないというのは、その低学年が高学年になったとき言うことを聞いてもらえないというように連鎖していくのは目に見えているようで不安です。



## 【保護者】

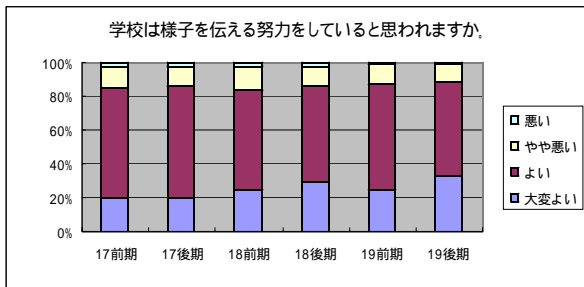


- 家庭での子どもの挨拶は横ばいではあるものの随分高い数値です。コメントにも「地域で挨拶させようと思ったら大人同士ができなければいけない」とありました。このような雰囲気広がってくることを願っています。

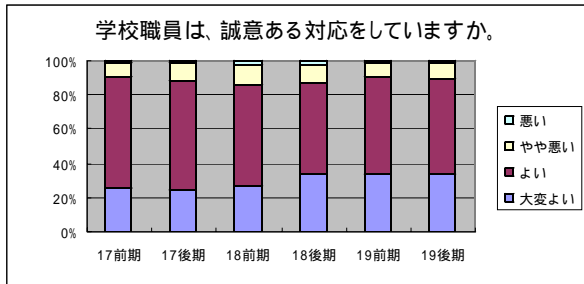
- 手伝いについては下降気味です。生活科や家庭科で学習したことが生きてくるには保護者の協力が必要です。子どもに任せると余分な仕事をつくってしまうのでというのも分からないでもないですが。

- 「安心感」という不明瞭な言葉で大変失礼している項目ですが、9割近い保護者の方が「まあ、よい」としてくださっています。この信頼感？を職員は自覚しながらお子様の指導に当たっていきます。

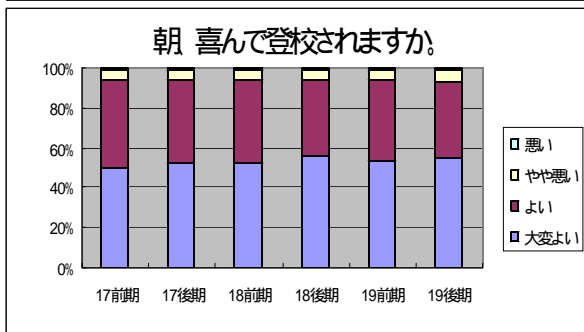
- 家庭学習の習慣が少しずつ高くなってきています。毎日のドリル学習などを早めに定着させたいものです。



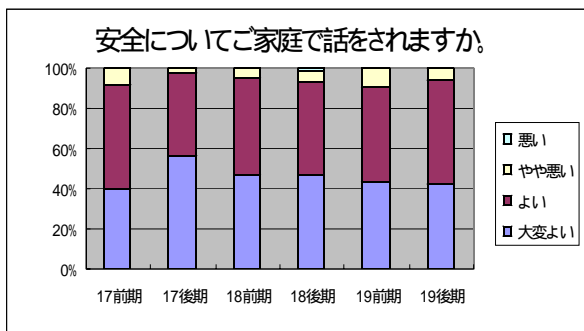
- ・まだまだ学級通信やこまめな電話連絡などが十分であるとは言えませんが、少しずつ上がってきています。本来は、気楽に悩み事を相談しあえる環境があるといいのですが、そのような時間を取ることが難しくなっています。今後も努力していきます。



- ・朝、欠席の電話を受ける際、時間によっては朝の活動で担任が近くにいないことが多々あります。確実に伝えるようにしているのですが、数件連続で入る時などあり迷惑をおかけしたことがあります。「今日の下校は へ」などの連絡もいたしますが、直接伝えていただくことがベストかと思っておりますのでご配慮願います。



- ・このところ長期の不登校児童がありません。親としては朝「学校に行きたくない。」と言われるほど困ったことはありません。今後もその予兆があったら早めにご連絡下さい。子どもたちは、まわりの大人が動いてくれることを期待しているのかも知れません。



平成17年度から3年間の数値の変化を見て、徐々に上がってきている結果が多くあります。学校、保護者の連携で指導してきた賜であると捉えています。他の学校、他地域、外国と比較すればまだまだの面ばかりになりますが、「現在、けっこういい方なんだ。」という立場でものを見ると前向きになります。前向きに構えれば問題の責任転嫁が少なくなります。結果、子どもが安定します。

様々な問題を抱えながらも、現時点では大きく逸れていない長島小学校の教育であると自負しながらさらに高いところを目指して教育活動を展開していこうと考えています。